消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	5階建て共同住宅の火災において、活動中の隊員が熱中症と推察される症状を発症した事例
3. 体験した事例の中心的要素	本事案では、数多くの隊員が熱中症と推察される症状を発症したが、特に症状が顕著であった。2名の職員について述べる。 Aは玄関ドア開放のため、エンジンカッターを使用中に筋肉の痙攣と頭痛を感じ、その後、送排風機の設定中、頭痛の悪化、倦怠感、虚脱感の症状が出たため休憩した。 Bは、ベランダから火点室に内部進入、火点検索を実施した。予想以上の濃煙・熱気により、進入時間が長くなり、呼吸の苦しさから退避し、積載の水を摂取したところ嘔吐した。
4. 体験した事例の原因・理由	開口部の開放に時間がかかったため、建物内部がかなり高温となったこと、更に活動時間が長時 間に及んだことにより、防火衣の着装によるヒートストレス、大量の発汗による脱水症状及び低ナトリウム血症を発症した。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成22年7月1日 午後9時頃
2. 発生した当時の天候	曇り
3. 発生した活動現場	屋外：5階建て共同住宅、3階階段室、3階ベランダ等
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他：隊員の頭痛、倦怠感、虚脱感、嘔吐等
7. 事例体験時の活動	火災 その他:現場活動中期～終了時
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

１０．ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者Ａ）

○当事者A	年齢[23]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6] 年、階級[消防士] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[25]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ] 年、階級[ ] 同様の活動 [ ]、任務 [ ]
○その他（当事者が4人以上の場合）	

11．事例発生の経過。

	誰が（何が）	なにをした	その他・備考など
経過1	A	エンジンカッターを使用し、玄関ドアを切断した。	
経過2	A	筋肉の痙攣、頭痛を感じたため他の隊員と交代した。	
経過3	A	送排風機の設定を行った。	
経過4	A	頭痛の悪化、倦怠感、虚脱感等の症状が出たため、活動不能となり休憩した。	
経過5	B	ベランダから内部進入し、火点検索を行った。	
経過6	B	ボンベ交換、水分補給のために車両に戻った。	
経過7	B	車両積載の水を飲んだところ嘔吐した。	
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 ：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

後方からの監視の目が行き届いていた。 他隊(員)から適切な注意を受けた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

〇装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

〇活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

〇指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

〇その他

l. その他の理由があった。

当該住宅は玄関ドアを子供が自由に開閉できないように、カギをドア内側上部に増設しており、玄関ドアの開放に相当な時間を要したことにより熱中症を助長する結果となったと推察される。

【事故発生後の取り組みについて】 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

〇注意力欠如、焦り等の対策について

〇装備・資機材の対策について

〇活動環境の対策について

〇指揮・情報伝達の対策について